

令和4年度厚生労働行政推進調査事業費補助金（障害者政策総合研究事業）
「良質な精神保健医療福祉の提供体制構築を目指したモニタリング研究」
（研究代表者 西大輔）
分担研究報告書

精神保健医療福祉の可視化に関する研究

研究分担者：○吉田光爾¹⁾

協力：株式会社アクセライト

1) 東洋大学福祉社会デザイン学部

要旨

目的：市区町村が精神保健医療福祉システムの整備状況について全国との比較の中で把握できる＝「見える化」する Web データベースを、他データベースとの関連も踏まえながら構築する。

方法：厚生労働行政推進調査事業（障害者政策総合研究事業）『医療計画、障害福祉計画の効果的なモニタリング体制の構築のための研究における研究』にて開発された市区町村による精神保健医療福祉資源整備進捗の Web データベースシステムの構築に関する研究成果を発展させ、より洗練された形での「見える」化システムを開発する。

結果：前述の『Regional Mental Health Resources Analyzing Database』（ReMHRAD）

（<https://rehmrad.jp>）を引き継ぎ、バージョンアップを行った。ReMHRAD は①第7次医療計画における「精神疾患の医療体制構築に係る現状把握のための指標例」の表示、②630 調査で把握された精神科病院への在院者の状況、③地域包括ケアのための資源の状況（訪問看護・障害福祉）、④社会資源マップ、の四つの内容で構成されている。本年度は②および③の経年表示機能の追加、および新たに⑤発達障がいに関する社会資源情報の掲載に関して検討した。自治体関係者と協議しながら、有効に活用されるデータベースとしての在り方を検討していく。

A.研究の背景と目的

我が国の精神保健福祉の概況や、精神保健福祉分野の整備状況を論じようとするとき、630 調査や患者調査を中心とした統計資料がこれまで参照されてきた。これらの基礎資料が果たしてきた役割は極めて大きい、いくつかの課題もあると考えられる。

第一に、統計の集計単位が大きいという問題がある。630 調査や患者調査のデータ集計単位はしばしば都道府県単位となっている。精神保健福祉分野の所管業務が市区町村にも付託されるようになっているが、メッシュの細かいデータ提供は不十分であり、市区町村が自分の地域の情報を把握するためにデータ活用することが困難な状況

になっている。他方で、都道府県にとっても情報把握は大雑把になってしまう可能性がある。

第二に、「数表の解読のしにくさ」によって「公開」の意味が無効化されてしまうという問題がある。官庁等の公開データは、主に Microsoft Excel による集計表であるが、集計表の数値の羅列から、意味ある情報を読み取ることは容易ではない。データが活用されず死蔵されれば、本来の公開の意味が損なわれかねない。

第三に、数値の比較可能性の乏しさという問題である。ある指標について、全国平均値がどの程度か、自分の自治体の状況は全国平均と比してどの水準にあるかは、地

域の問題把握や政策立案の上で重要だが、他の自治体と直感的に比較可能な情報の公表はされていない。

第四に、情報の分散化という課題がある。精神保健福祉分野の統計資料については、様々な媒体で閲覧できるようになっているが、情報は分散しており、複数の資料を統合して検討しないと、全体像にたどり着かないなどの課題がある。

総括すると「わが市の市民は何人、どこに長期入院しているのか」「それは全国と比較して多いのか少ないのか」「そのためには何を調べればいいのか」「それを数字の羅列ではなく、知りたい」等のニーズにこたえるには限界があったといえる。

これらの課題に対応するために、著者は、厚生労働科学研究にてWeb上で閲覧できる精神保健福祉上の統計指標を、1) 市区町村単位で、2) 地図データを利用し可視化してわかりやすく、3) 多自治体とも比較可能な形で、4) 各種指標を統合して表示する、データベースシステムを開発し公開している。これを ReMHRAD (Regional Mental Health Resources Analyzing Database/地域精神保健医療福祉資源分析データベース：リムラッド)と呼称している。本稿では、2023年4月時点公開されたバージョンの当該データベースの概要について紹介する。

B. 方法

厚生労働行政推進調査事業（障害者政策総合研究事業）『医療計画、障害福祉計画の効果的なモニタリング体制の構築のための研究における研究』で開発された ReMHRAD に関する研究成果を活用しつつ、分担研究者と協議の上、より視覚的に把握しやすいデータベースシステムを構築し、また新規のデータが得られたものについては、データのアップデートを行った。

改修については本研究班における班会議

や、2020年11月27日にWeb上で開催された『良質かつ適切な精神保健医療福祉の確保のためのデータの利活用に関する研修』などで意見を収集し、その結果を反映させた。反映させた内容については結果欄で報告する。

なお本年度、本研究で利用されているデータは、既にWebなどで他で公開されているデータの二次利用であり、個人情報や倫理的な観点からの審査案件にはあたらない。

C. 結果

ReMHRAD は国立精神・神経医療研究センター内にて公開されている Web データベース (<https://remhrad.jp/>)¹⁾ である。本データベースは①第7次医療計画における「精神疾患の医療体制構築に係る現状把握のための指標例」の表示、②630調査で把握された精神科病院への在院者の状況、③地域包括ケアのための資源の状況（訪問看護・障害福祉）、④社会資源マップの、4つのタブにわかれたコンテンツから構成され、来年度に向けてさらに1つのタブを追加検討をしている。本年度での改修点および改修計画点について以下で述べる。

1) 2022年度のアップデート内容

2023年度には以下のアップデートを行った。

(1) 既存の指標についてのアップデート

以下のタブについて情報を更新した。

②在院者/退院者の状況（630調査）

630調査で把握された在院者/退院者については2022年度まで情報が更新されたことから²⁾、これについて ReMHRAD 上へ反映させた。

③地域包括ケアのための資源の状況（訪問看護・障害福祉）

630調査で把握された訪問看護ステーションの情報については2021年度まで情報が更新されたことから³⁾、これにつ

いても ReMHRAD 上へ反映させた。

④各社会資源のマッピング

630 調査で訪問看護ステーションの情報が更新されたことから³⁾、これについても 2021 年度までの情報を更新した。また精神科医療機関についての情報を「日本医師会 地域医療情報システム」⁴⁾をもとに刷新した。

なお①第 7 次医療計画における「精神疾患の医療体制構築に係る現状把握のための指標例」については、NDB からのデータの提供の遅延のため 2022 年度内のデータ更新はしていない。(2023 年度に更新予定である)

(2) 新しい機能についての実装

関係者や研究班内の意見を反映し、以下の機能を実装した。

①経年表記の実装

これまでの ReMHRAD はデータのソースを表記したうえで、最新の情報しか掲載されていない状態で、過去のデータを参照できなかった。しかしデータと使用する際に過去の情報を参照することで、経年変化を把握することができるなどのメリットが存在する。そこでタブ 2 (630 調査による在院者/退院者の状況：図 1) およびタブ 3 (地域包括ケアのための資源の状況：図 2) についてデータが存在する年度についての切り替えスイッチを搭載した。

②発達障がい支援する社会資源に関する表示の検討

厚生労働科学研究「地域特性に応じた発達障害児の多領域連携における支援体制整備」(主任研究者 本田秀夫)と連携し、発達障害に関する社会資源の表示について検討した。各都道府県が発行する「発達障がいの診療を行う診療機関」、「子どものこころの診療機関マップ」、都

道府県が運営する「医療情報ネット」で発達障害(自閉症・学習障害等)の情報から、各都道府県・市町村単位で発達障がい診療する医療機関の情報を表示する(図 3)。現在は試験的にサイトを使用し、データの公開の許可を関係各機関から得られ次第、公開予定である。

2) アクセス数について

図 4 に ReMHRAD の PV に関する状況を示す。年間を通して 4000~7000 ビュー/月を確保しており、広く継続的な利用がうかがえる。

D. 考察

現在、ReMHRAD は上記の構成になっているが、これは開発中のデータベースであり、今後このデータベースがどのように活用されていくかが試されているといえるが、幾つかの検討すべき事項があると考えられる。

1) 経時的な変化を把握するための表示機能

ReMHRAD の運用から数年が経過し、また各指標のアップデートも数次にわたっている。今年度はいくつかの指標について過去年度のデータを記を実装したが、幾つかの課題が存在する。

①医療計画指標の経年表記：現在 1 タブ目で掲載している医療計画指標についてはデータソースの年度が、指標によってまちまちになっている。また指標も第七次医療計画の新旧、また新規の第八次医療計画によって異なっている。そのため「年度」「指標」を連続的に比較することが困難な状況になっている。この点についての検討が必要であろう。

②過去との変化量がわかるような表記：現在の経年表記は各年度のデータをそのまま表記したものになっている。しかし過去からの変化量については表示できないため、

これらを検討していくことがデータのわかりやすく示すためには重要であると考えられる。

2) 第8次医療計画指標等も踏まえた全体のレイアウト変更

新たな第8次医療計画指標の改定も含め、地域精神保健福祉に関する新たな指標が検討された。これらの新指標を、各自治体が实际的に行政の中で活用できるようにするためには、どのようなWebデザインが効果的なのか、引き続き検討が必要であろう。

3) 630調査における退院者の転帰情報

630調査については現在、退院時の転帰（居住）に関する情報を収集されている。退院者が果たしてどのような転帰に至っているReMHRADとの検討の中で、どのように情報を収集するか、またどのような表記の仕方が、自治体にとって意味のある情報となるかを検討する必要があるだろう。

医療計画指標やその他の情報については、我が国の精神保健福祉行政において政策的に何を目指していくかによって、求められる指標が変化していくと考えられる。ReMHRADは、それらの変化に対応し、市民や地方自治体によってそれらの情報をより活用されやすい形で提供する媒体として、引き続きデザインや機能を更新し続けていく必要があると考えられる。

1) 国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所：地域精神保健医療福祉資源分析データベース（Regional Mental Health Resources Analyzing Database/リムラッド），

<https://remhrad.jp/>

2) NDB分析 20200331 付表 ver1.5.xlsx：持続可能で良質かつ適切な精神医療とモニタリング体制の確保に関する研究HP内、
(<https://seishin-chikouken.jp/ndb.html>)

3) 国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 精神医療政策研究部：精神保健福祉資料（630調査），<https://www.ncnp.go.jp/nimh/seisaku/data/year.html>

4) 日本医師会：地域医療情報システム、
(<https://jmap.jp/>)

E. 健康危険情報

なし

F. 研究発表

1. 論文発表
なし

2. 学会発表
なし

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
なし

2. 実用新案登録
なし

3. その他
なし

H. その他

図 1：新規に追加された機能（経年表示：タブ②）

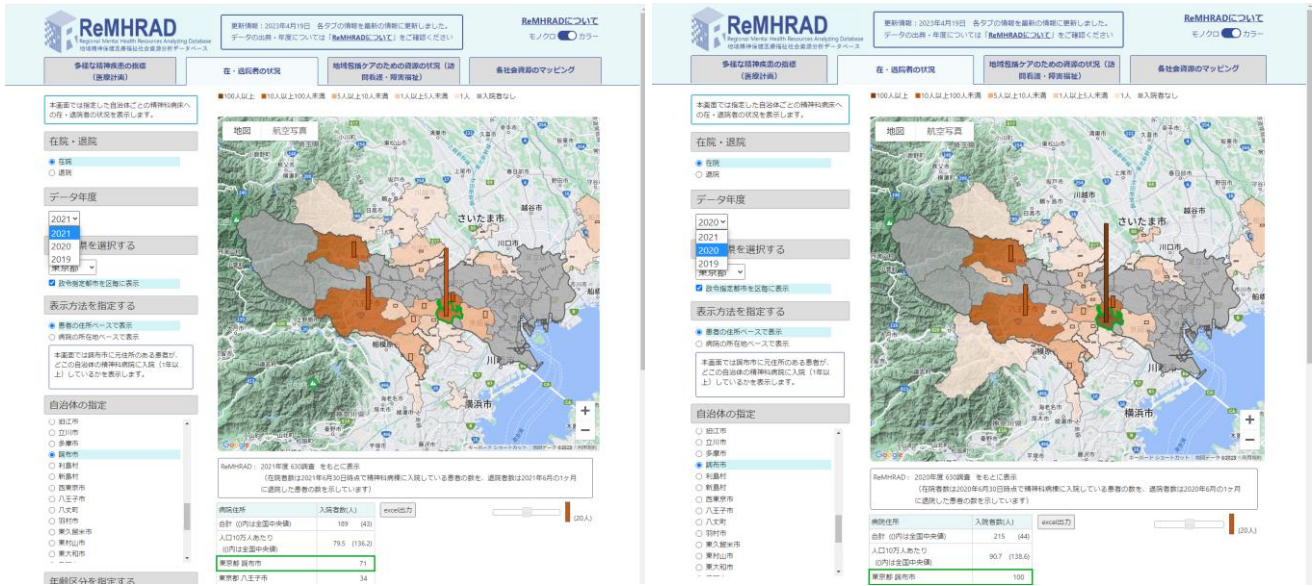


図 2：新規に追加された機能（経年表示：タブ③）

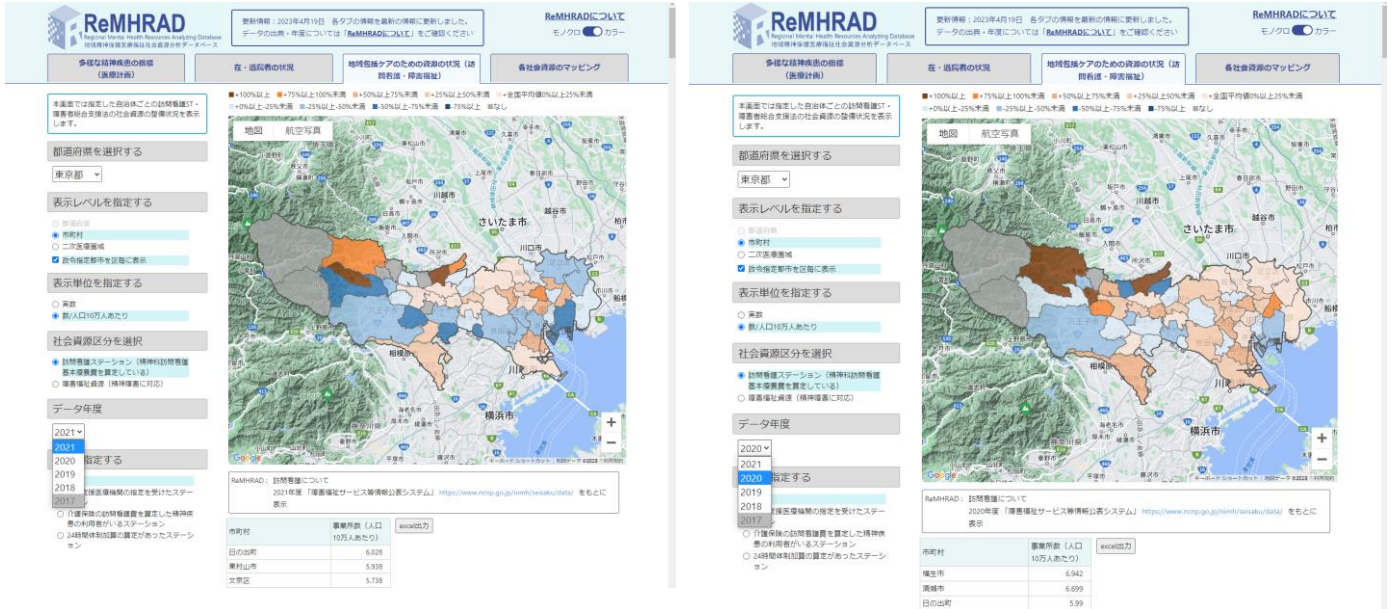


図3：発達障がいに関する社会資源の情報（試作段階）

ReMHRAD
Regional Mental Health Resources Analyzing Database
発達障害医療福祉社会資源分析データベース

更新情報：2022年4月4日 各タブの情報を最新の情報に更新しました。
データの読み込み年度については「ReMHRADについて」もご確認ください

ReMHRADについて
モノクロ カラー

新しいタブ

多様な精神疾患の強種
在・退院者の状況
地域包括ケアのための資源の状況
(訪問看護・障害福祉)
各社会資源のマッピング
発達障害を支援する社会資源

本画面では、指定した自治体の発達障害を支援する社会資源(仮)を所在地情報をもとにマッピングします。

都道府県を選択する
北海道

社会資源を選択
医療資源
 発達障害の診療を行う医療機関
障害福祉資源
 発達障害者支援センター

都道府県と市区町村を選択できるようにする(Excelには、自治体コード反映済み)。現行のReMHRADでは、政令市の各區まで検索できる仕組みになっているが、発達障害タブでは、政令市の区までは検索をしない仕組みにする。※検討

発達障害者支援センターを選択した場合、「都道府県を選択する」の市区町村は選択できない状態にする。(都道府県・政令市のみ設置のための)

地図 航空写真
発達者のヒートマップ

情報収集の優先順位

- ① 各都道府県が発行する「発達障害の診療を行う医療機関」リストからの収集
- ② 「子どものこころの診療機関マップ」に登録されている都道府県については、①との重複を省いた医療機関を収集
- ③ 上記①、②を持たない自治体については、都道府県が運営する「医療情報ネット」で「発達障害(自閉症・学習障害等)」に該当した医療機関情報を収集

※ 「子どものこころの診療機関マップ」に登録されているが、①を持たない都道府県については、「子どものこころの診療機関マップ」からの収集を優先し、その後、重複していない情報を「医療情報ネット」から収集した。

ReMHRAD：各自治体が発行する「発達障害医療機関リスト」
「子どものこころの診療機関マップ」(こどものこころの診療ネットワーク事業<https://kokoro.ncchd.go.jp/>)
上記を持たない自治体については、医療情報ネット(医療機能情報提供制度)をもとに表示(2022年12月時点)

図4：ReMHRADの2022年度のアクセス数の推移(単位PV)

